

今回は認知症について、脳の構造と認知症による「物忘れ」と老化による「物忘れ」の違い等を簡単に説明しましたが、認知症にはいくつかの種類があり、原因や症状が異なります。認知症の介護には、種類ごとの特徴を知ること大事です。今回は認知症の主な種類とそれぞれの原因・症状について説明いたします。

アルツハイマー型認知症

●アルツハイマー型認知症の特徴

アルツハイマー型認知症は、認知症の中でも最も多い脳神経疾患です。発症と進行は比較的に緩やかですが放置すれば確実に悪化していきます。特徴としては、認知症状の起こる数年前、比較的早い段階でその診断が可能であるということです。紙に立体図形が書けない、時計の針を記入できないなど特徴的な変化が認められます。

発症時期は、若年性の場合40歳代から発症することもありますが多くは、加齢に伴い発症率が高くなってきます。症状は人や物の名前を忘れるなどの記憶障がいから始まりますが、その数年前から軽い人格の変化が起こることがあります。具体的には頑固になる、怒りっぽくなる、情緒を解さなくなるなど不穏な性格に変化することが多いようです。

●アルツハイマー型認知症の特徴

軽度	・年月日が分からなくなる ・買い物時に支払いがうまくできない。 ・不必要な買い物をしてしまう。
中度	・場所の認識ができなくなり、外出先から戻れなくなる。 ・季節にあった服が選べない。 ・自動車の運転ができなくなる。 ・感情障がいが出る（大声を上げる、暴言を吐く等）
重度	・被害妄想や幻覚などが頻繁に出現する ・家族や身近な人が分からなくなる ・意思の疎通が困難になる ・身体機能の低下に伴い、日常生活に介護に必要となる。

●アルツハイマー型認知症の原因

アルツハイマー病は脳内で特殊な異常たんぱく質が増えることで発症すると言われています。この異常なたんぱく質の蓄積により、脳の神経細胞が壊れていき、脳の委縮が進みます。まず最初に脳神経が減る部分が、脳の側頭葉の「海馬」と呼ばれている部分です。この「海馬」は短期記憶を司る場所なので「少し前のことを覚えられない」という記憶障がい、病気の初期段階で起きてしまいます。晩発性アルツハイマー型認知症の場合は、老化に伴い難聴・視力低下が進行することによりコミュニケーションをとる機会が減ることで脳の機能を使わなくなることが原因で脳委縮が起きてしまいます。

脳血管性認知症

●脳血管性認知症の特徴

脳血管性認知症とは、脳梗塞や脳出血などの脳血管障害を起こした後、その後遺症として発症する認知症です。突然の脳梗塞や脳出血が原因で急激に認知症が発症する場合と小さな脳血管障害を頻繁に起しているうちに、徐々に認知症が進む場合があり、これにより症状の違いも現れます。また血管障がいを受けた脳の部位によっても症状に差があり、麻痺や言語障がいが多くみられます。脳梗塞とは、脳の血管が血栓によって塞がれてしまい血流が途絶えてしまう病気で脳出血は脳の血管が破れて出血する病気です。このような障がいによって脳への血液量が少なくなる、あるいはなくなると脳はダメージを受けます。その時の血管障がいの強さと大きさがのちに引き起こされる認知症の程度と関係してきます。

●脳血管性認知症の症状

脳血管障害で脳がダメージを受けた部位によって症状は微妙に異なります。めまい、しびれ、言語障がい、麻痺、感情失禁（涙もろくなる）、知的能力の低下、判断力の低下などが症状として現れますが、記憶力の低下はあるのに、判断力や理解力は保たれているなどムラがあるのも特徴です。

主症状	・片麻痺 ・歩行障がい ・構音障がい（声を上手に出せない） ・意欲や自発性低下 ・頻尿、尿失禁 ・嚥下障がい（食べ物飲み込みめない）
-----	---

●脳血管性認知症の原因

原因の7,8割は脳梗塞によるものです。脳梗塞や脳出血などの血管障がい引き起こされる原因は、ほとんどの場合、生活習慣病と言われています。危険因子と言われている生活習慣病は、高血圧・動脈硬化症・糖尿病・高脂血症などですので、生活習慣を見直す等の努力で、これらの生活習慣病を予防することは可能であり、ひいては脳血管性認知症の予防にも繋がります。

レビー小体病の症状

●レビー小体病の特徴

レビー小体病は、アルツハイマー型認知症について多い認知症で、認知症全体の約2割を占めています。記憶障がいが多いなど、アルツハイマー病やパーキンソン病に似ている症状が現れますが、決定的に違うのは初期段階より「幻視」が多くみられることです。

訴える幻視は、「知らない子どもがそこにいる」「知らない人が寝ている部屋に入ってきた」等と本人に生々しくはっきりと見えています。症状がパーキンソン病にも似た運動症状が現れるので、パーキンソン病と間違われることもありますが、早期に診断できれば症状の改善が期待できる疾患です。

●レビー小体病の症状

典型的な症状	・初期に幻視、幻覚を訴える ・1日の内で症状の変動が著しい。 ・便秘、血圧変動、失禁などがみられる。
アルツハイマー型認知症と似た症状	・年月日が分からない ・場所が分からず、外出先から戻れなくなる ・記憶障がいが見られる ・感情的になりやすい 等
パーキンソン病と似た症状	・手足が震える ・筋肉がこわばる ・嚥下障がい（飲み込みにくくなる） ・動作が緩慢になる ・猫背になりやすい ・気絶や卒倒 等

●認知症の種類分布



●認知症の中核症状と周辺症状

認知症は脳が原因で物忘れなどを示す進行性の病気です。症状としては、認知症になると誰にでも出る「中核症状」と認知症になってもいつも出るとは限らない「周辺症状」とがあります。

認知症になると誰にも出る症状(中核症状)	・手足が震える物忘れ ・人の顔や道順が分からない ・計画を立てられない、実行できない ・時間や場所が分からない
認知症になってもいつも出るとは限らない症状(周辺症状)	・幻覚、妄想、睡眠障がい、徘徊、興奮(暴力・暴言)、異食、介護抵抗 等々

周辺症状は、いつもこういった症状が出るとは限りません。認知症の方を介護するとき「大変だなあ」と思う症状のほとんどがこの周辺症状です。認知症の主たる症状がこの周辺症状と勘違いしがちですが、実は中核症状が認知症の主たる症状です。周辺症状は中核症状を背景にして、その人なりの理由があって引き起こされています。馴染のない環境や居心地の悪い環境によっても引き起こされるようです。周囲の人の対応で症状が緩和されることも多いので、なぜそのような周辺症状が出たのか原因を探ってあげることが大切です。

認知症にはたくさんの種類の病気があります。早期発見・治療・対応がとても大切です。まずは、かかりつけ医等に相談しましょう。

※次号では「認知症の症状」に対する対応・介護方法について掲載予定です。その他、認知症に関してご質問やご相談も随時、受付しておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

担当 / 藤井 伸彦 ☎097-541-0344

次回は5月号です。情報満載でお届けします！お楽しみに！

玉光苑新聞

HAPPY NEWS, SURPRISE NEWS, GREAT NEWS

vol.05

2015 3月号 発行元/玉光苑

平成27年春、新しい季節と共に、玉光苑も新たに歩み始めます

HAPPY NEW
GYOKKOUEN!



社会福祉法人雲山会は、創立48周年の節目を迎える平成27年3月、いよいよ特別養護老人ホーム玉光苑の改築工事が完了いたします。創立以来、社会福祉事業の担い手としての役割を果たすべく法人創設の理念に基づき福祉サービスの提供をさせて頂いておりますが、伝統を継承するとともに変わるものと、変わらぬものを見きわめ新たな価値観をもって事業展開を行っていく所存です。

玉光苑改築により、更に利用者の安心、安全な生活環境が整備されました。人材を育成し「利用者本位」を柱とするサービスと、地域ニーズに貢献する責

任を感じております。

又、ご承知のとおり4月から介護報酬が改定されます。サービスの質・効率化が求められる中、皆様からの信頼を頂ける施設を目指してまいります。今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

社会福祉法人 雲山会 理事長
特別養護老人ホーム 玉光苑 施設長
秦 勝子

11～1月もたくさんのイベントがありました！

今回もイベントが盛りだくさんでした！クリスマスパーティー、かかし祭り、新年のイベントなど…。玉光苑では利用者の皆さまに毎日楽しんで頂けるようなイベントがたくさんあります！

HAPPY
Birthday!

11～1月も誕生日を迎えられた方が5名います！
皆さん、おめでとうございます！



卒寿おめでとうございます！
これからもお元気で
いて下さいね！



卒寿
おめでとうございます！

かかしまつり

かかし祭りに行きました。個性豊かなかかしを
たくさん見て、楽しめました。



壁飾り

新年の抱負を書いた絵馬を壁飾りにしました。
今年の干支の未がとっても可愛く出来ました！

Smile!



今年もとびきりの
スマイルを
見せて下さい！

クリスマスパーティ

サンタがクリスマスプレゼントを届けにやって
きました。プレゼントを貰って嬉しそうな皆さん
が見られました。



ボランティア

ボランティアで初釜のお茶会をしました。
自分で点てたお茶のお味は格別においしい！



初詣



護国神社に初詣に行きました。みなさんそれ
ぞれどんな願い事をしたのでしょうか？2015年
もどうぞよろしくお願いします！

スタッフメッセージ

【ホームヘルプ事業 玉光苑 吉田 浩美】

長い工事期間を経て、いよいよこの3月に玉光苑の改装が完了します。
既に沢山の利用者様からさまざまなお声掛けを頂き、職員も一層楽しみに
完成を待っているところです。

ところで最近利用者様から口々に、今後の介護サービスに対する質
問を頂きます。老後の不安からサービスの必要性を益々感じているの
に、制度自体が変わるという話をいたる所で耳にするからに他なりませ
ん。特に訪問介護は常に変更の対象になってきた経緯があり、利用者
様のご心配もより現実的です。事業所としては必ず個別訪問のうえ事
前に説明を行い、関係事業所と連携を図りながら皆様の不安解消に努
める事をお約束致します。私達の目標は、制度上の制約が多い中にあっ
ても、利用者様が出来るだけご自身の力で、ご自分らしく生活が続けら
れるよう、専門性を活かしながらサポートするという事です。

平成27年春、新生玉光苑のスタートにふさわしく、その屋台骨のひ
つとして、地域福祉に貢献できる事業所を目指します。

【介護保険サービスセンター 玉光苑 管理者 赤阪 美樹恵】

早春の候、皆さまにはますますご健勝のほどお慶び申し上げます。
2015年介護保険の見直し、介護報酬の改正が行われます。介護保険
事業状況報告において、介護保険のサービス利用者は500万人を超え、
介護認定を受けている方々は600万人が目前に迫っております。
介護は「個々の力」の限界があります。「社会的な支え合い」(ソーシャ
ルインクルージョン)が必要不可欠です。介護保険制度の基本理念は「自
立支援」すなわち、自らの有する能力を最大限に活かし、自立して生活を
送ることができるよう支援することとなっています。私たちケアマネジャ
としての役割も、「自立支援、介護保険からの卒業」に向けてのマネジメン
ト力が問われています。誰もが願う、「家で暮らしたい」の想いを、最大
限可能とできるように、また「暮らしの場所の選択の時期」となった時には、
その方らしく暮らしていくことのできる生活の場と一緒にみつめていけ
るように、日々4名のケアマネジャで努力をしております。

地域の中で「暮らしの継続」となりますよう、お手伝い致します。「アプ
ラを入れてくる」といって、車ででかけたから「それはガソリン」である。大分。
数を数えれば、「アイコン、ニコン…」「1個、2個」とは数を数えない大分。
お隣さんへのお声掛けも「ごめんください。」ではなく、「おるかえー」の
大分。どのようなタイミングで使うのかはわかりにくいですが、「あらまあ」
のような時に「ちゃーま」という大分。そんなあたたかい地域の中で、丁寧
に暮らしの自立支援を目指していきます。春寒さの折り、お身体をおい
とください。

【玉光苑デイサービスセンター 管理者 藤井 伸彦】

新しい年を迎え、スタッフ一同、気持ち新たにしております。
昨年4月の新設オープンにて環境整備も大きく改善することができ、
利用者様におかれましては、より快適にお過ごしになられているとの事で
大変嬉しく思っております。

社会福祉法人の事業部(デイサービス)として地域福祉に貢献できるこ
とは数多くあり、今後積極的に取り組んでいかなければならないと考え
ていますが日頃から大切に考えているのは「想い」でございます。「愛さ
れたい。人の役に立ちたい。認めてもらいたい。」という利用者様の想い、
「いつまでも寄り添ってほしい。元気に長生きしてほしい。」というご家
族の想い、それらの想いを受けてご支援をさせていただく私たちスタッフの
想い。それぞれの「想い」を大切に結びつけることで「絆」となり、その
絆をより強く、大きなものとする事を使命と考えています。おひとりお
ひとりの「想い」に添い、その人らしくあり続けることができるよう、真心
を込めたサービス提供に努めてまいります。

訪問介護とは

主に高齢者世帯や独居の方、又、何らかの障がいや有する方に対して、ご自宅で
自分の望む自分らしい生活が継続できるよう、身体的又は家事等の必要なサービス
を提供しながら、自立に向けた専門的な支援を行います。

居宅介護支援事業所とは

居宅介護支援事業所とは、大分市の指定を受けた介護支援専門員がいる事業所
です。介護サービスを受けるために必要な「要介護認定」の申請代行や居宅サー
ビス計画書(ケアプラン)の作成の際の窓口となります。

玉光苑デイサービスセンターとは

認知症対応型通所介護とは、居宅要介護者で認知症の人が、日帰りで通って、
入浴、排せつ、食事等の介護、生活等に関する相談と助言、健康状態の確認その他
の居宅要介護者に必要な日常生活上の世話と機能訓練が受けられる介護サービス
を言います。

玉光苑の
各サービスって？